

タイトル:平成 24(2012)年度 教育セミナー

日時:平成 24 年 9 月 14 日(金)~17 日(月・祝)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「シェイフ・サイドの乱における反乱当事者の思想について」

能勢 美紀(東京外国語大学大学院博士前期課程)

今回は、2 度目の教育セミナー参加となり、自身の研究報告をさせていただく機会も得ることができました。初めて教育セミナーに参加してから早 3 年になり、その間の自分の進歩を振り返るとお恥ずかしい限りですが、今回、その拙い成果を、途中経過であるとは言え、発表する機会をいただき、先生方をはじめ、受講生他、多くの方々から様々なご意見をいただくことができ、本当に励みになったと感じています。特に、研究分野・地域の異なるの方々からのご意見は、普段のゼミ等ではなかなかいただくことができないもので、自分の「常識」を再検討することの必要性や、あらたな「発見」が多くありました。もちろん、研究分野を同じくする方々からは仔細なご指摘をいただき、そちらも、今後自分の研究を更に発展させ、完成させていく上で、欠かせないものとなるだろうことは間違いありません。特に、今回は以前とは違い、発表の場をいただいたことで、上述致しましたように、自身の研究に対して多くのご意見・ご指摘をいただくことができましたが、それにもまして、こちらで発表するまでの準備の過程、そして、実際の発表を通して、このセミナーが、自らの研究を少し立ち止まって振り返る良い契機となったと感じています。研究を進めて行くと、つい独りよがりになりがちであるとともに、このようなセミナーで発表することさえ、忙しさを理由に避けがちになってしまうのですが、「早く研究をすすめたらい」というはやる気持ちを抑えてでもセミナーに参加して、本当に良かったと思いました。このセミナーを通して、自分のしようとしている研究の「位置づけ」を改めて思い、確認した次第です。

また、講師の先生方のお話や、他の受講生の方の発表、そして質疑応答の時間を通して、研究に対する意欲が、本当に高まりました。精神論になってしまいましたが、「あきらめない」ことの重要性和、「あきらめなければきっと大丈夫」という妙な自信がついた 4 日間でした。4 日間、泊まる所だけ自宅、という強化合宿形式(?)で、研究に対して「カツ」が入れられたかな、と、最後は少しくずれた言い方をして、感想を締めくりたいと思います。

末筆ながら、今回もこの教育セミナー開催にあたって、準備を進めてくださった先生方、そしてとても興味深いお話をお聞かせ下さった講師の方々、さらに、私の至らない発表に多くの意見を寄せてくださった先生方と受講生の皆さまに深く御礼申し上げます。

今後もここでの経験を糧に、私自身、更なる研究の進展を目指していきたいと思っております。